

建築物名称	(仮称)ピジョンホームプロダクツ(株)新工場建設工事
受付日	令和4年1月21日
建物所在地	富士市大淵 字大峯3886-7 他7筆
構造規模等	鉄骨造/地上2階/延床面積12,015.73平方メートル/新築
建物用途区分	工場
建築主	ピジョンホームプロダクツ株式会社 代表取締役社長 矢作 一郎
設計者	木内建設株式会社 一級建築士事務所 相模 明
工事完了予定日	令和5年2月28日

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)2021年SDGs対応版

# 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ピジョンホームプロダクツ(株)新	階数	地上2F
建設地	静岡県富士市大淵 字大峯3886-7	構造	S造
用途地域	都市計画区域内市街化調整区域、	平均居住人員	160 人
地域区分	7地域	年間使用時間	1,960 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	
敷地面積	30,036 m <sup>2</sup>	作成者	相模 明
建築面積	7,775 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	12,016 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

\* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.8

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.5

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他	
富士山のふもと、富士市大淵の市街化調整区域に新設する育児用品メーカーの工場である。その用途上、ほとんど周辺環境に影響を及ぼさない建築物であるが、近隣の住宅街からの眺望を阻害しないよう、景観や周辺施設になじむよう配慮した。	特になし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
工場用途になるが、執務スペースとして2階の事務所エリアを評価対象とした。ホルムアルデヒド対策において建材はF☆☆☆☆以上を用いる計画としている。	「空間のゆとり」や「荷重のゆとり」があることで、将来の設備機器の更新やレイアウト変更へ順応でき、建築物を長く使い続けられる。	公共空間からほとんど見えないが、建物形状・外装の配色は周辺の環境に調和するように配慮している。建物は長方形で死角になるクランク部がないので防犯性も配慮
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建築物省エネ法は工場モデルとなる為、照明設備の一次エネルギーのみの評価となるが、外気にふれる部位は断熱を施し、建物外皮の熱負荷抑制にも配慮している。	建屋周辺はトラックパスとなる為、アスファルト舗装やその路盤は再生材を積極的に採用している。	燃焼機器の使用が無い為、大気汚染対策に配慮している。屋外広告物照明が無いことにより、周辺環境へ配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要				
建物名称	(仮称)ビジョンホームプロダクツ(株)新工場建設工事	BEE	1.2	BEEランク B+ ★★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.7 /5		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.7 /5		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0 /5		ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.8 /5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4点以上	ふつつ 3点以上
			がんばろう 3点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>		<b>3.7</b>	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>①窓U=3.5(W/m<sup>2</sup>) 屋根U=0.6(W/m<sup>2</sup>) 外壁U=0.5(W/m<sup>2</sup>)</p> <p>③ブラインド又はカーテンによりグレアを制御</p> <p>④外壁 対候性の高い塗装 20年以上(塗装塗替え)</p> <p>内装 化粧ケイカル板 15年程度</p> <p>設備配管・ダクト 30年以上</p> <p>主要設備機器 15年程度</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ①	① 外皮性能	
	Q-1 3 3.1 3.1.3 ②	② 屋光利用設備	
	Q-2 2 2.2 2.2.1 ④	③ 屋光制御	
	2.2 ④	④ 躯体材料の耐用年数	
2.2.2 ④	④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔		
2.2.3 ④	④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
2.2.4 ④	④ 空調換気ダクトの更新必要間隔		
2.2.5 ④	④ 空調・給排水配管の更新必要間隔		
2.2.6 ④	④ 主要設備機器の更新必要間隔		
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p>	Q-3 1 ⑤	⑤ 生物環境の保全と創出	
3 3.2 ⑥	⑥ 敷地内温熱環境の向上		
<p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑨BEIm=0.52 LED照明の採用。省エネ機器の導入。</p> <p>⑩運用管理体制を組織化している。</p>	LR-1 1 ⑦	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制	
2 ⑧	⑧ 自然エネルギー利用		
3 ⑨	⑨ 設備システムの高効率化		
4 4.1 ⑩	⑩ モニタリング		
4.2 ⑩	⑩ 運用管理体制		
<p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪節水コマや省水型機器を採用している</p> <p>⑫S造につき、解体時に躯体と仕上げ材の分別が容易。</p> <p>⑬屋内消火栓</p>	LR-2 1 1.1 ⑪	⑪ 節水	
1.2 1.2.1 ⑪	⑪ 雨水利用システム導入の有無		
1.2.2 ⑪	⑪ 雑排水等利用システム導入の有無		
2 2.1 ⑫	⑫ 材料使用量の削減		
2.2 ⑫	⑫ 既存建築躯体等の継続使用		
2.3 ⑫	⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用		
2.4 ⑫	⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
2.5 ⑫	⑫ 持続可能な森林から産出された木材		
2.6 ⑫	⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み		
3 3.1 ⑬	⑬ 有害物質を含まない材料の使用		
3.2 3.2.1 ⑬	⑬ 消火剤		
3.2.2 ⑬	⑬ 断熱材		
3.2.3 ⑬	⑬ 冷媒		
<p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p>	LR-3 1 ⑭	⑭ 地球温暖化への配慮	
2 2.2 ⑮	⑮ 温熱環境悪化の改善		
<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		<b>2.7</b>	
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑯建築基準法の1.2倍</p> <p>設備機器は耐震クラスA以上で設置予定</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯	⑯ 耐震性	
	2.1.2 ⑯	⑯ 免震・制振性能	
	2.4 2.4.1 ⑰	⑰ 空調・換気設備	
	2.4.2 ⑰	⑰ 給排水・衛生設備	
	2.4.3 ⑰	⑰ 電気設備	
	2.4.4 ⑰	⑰ 機械・配管支持方法	
	2.4.5 ⑰	⑰ 通信・情報設備	
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		<b>3.0</b>	
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑳一番低い階高で4.0mとゆとりがある。壁長さ比率=0.06と間取り変更には柔軟に対応できる。</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画	
	3 3.1 3.1.1 ⑳	⑳ 階高のゆとり	
	3.1.2 ⑳	⑳ 空間の形状・自由さ	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p>	Q-3 3 3.1 ㉑	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		<b>2.8</b>	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上)</p> <p>㉔建物形状・外装の配色は周辺の環境に調和するように配慮している。</p>	Q-3 1 ②	② 生物環境の保全と創出	
	2 ②	② まちなみ景観への配慮	
	3 3.2 ⑥	⑥ 敷地内温熱環境の向上	
<p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)</p>	LR-2 2 2.5 ⑫	⑫ 持続可能な森林から産出された木材	
LR-3 2 2.2 ⑮	⑮ 温熱環境悪化の改善		